

INFORMATION▶▶▶池田さんをお招きして、
「肌の衰えや健康に不安をお感じの方へ
水溶性珪素umo『命の源』説明会」を開催します。
日時／11月5日(木)13:30～15:00
会場／アイ・エイチ・エム 会議室 参加費／無料
ご連絡の上、お気軽にご参加ください。
お問い合わせ／TEL.03-3863-0211
詳細は、折り込みチラシをご参考ください。

—昨年までの6年程の間「和龍の画」の奉納配布活動で、
故・江本 勝先生とIHMの皆様とは、
いろんなかたちで連携しての活動をさせて頂きました。
お陰様で「和龍の画」奉納活動は所期の目的が達成され
—昨年に終了いたしました。ありがとうございました。
さて今回は現在取り組んでいるNEO
(New Exodus Operation =希望に向けての脱出作戦)の
一端について紹介させて頂きます。



池田志朗の

希望に向けての 脱出作戦!

お金に換えない農業へ

私は2008年に一般社団法人
日本里山協会を立ち上げ、全国各
地で自給自足型生活へ誘う活動を
行なって来ました。

この分野での大問題は皆さんご
存じの通り、農山漁村から都市に
人が出て行ってしまい、自然か
ら得られる糧の生産が出来なくな
りそうなのです。私は「作物をす
べてお金に換算して考えるしか
なくなっていること」に、その根本原
因があると感じています。

だったらお金を介在させないで
作物を作り、利用するかたちにす
れば良いわけです。つまり目指す
は自給自足とお金に換えないかた
ちでの流通のかたちに持つて行く
ことです。そもそも人はこの地球
の一員として、地球の営みに合わせ
て、日々の糧を得るのが自然な姿
だったはずなのです。

大規模化は間違いです

ここでひとつ質問です。現在の
日本で農業に携わっている方が全
産業に占める割合がどの位だと思
いますか？

いろんな方に答えて貰いまし
たが、割と多かったのは10%と云

うものでした。しかし実際には約
3%に過ぎないんですね。そして
今もどんどん減っているんです。

それに対して大規模化すること
で国際競争力を得て食糧自給力を
上げるとの理屈の対策が進められ
て来ました。しかしこれは米国に
は当てはまっても、日本の国土の
地形や都市との距離等にまったく
適合しない考え方ですね。

日本に適するダーチャ型農業

それに対して、現在の日本に
ピッタリの農業再生モデルがあり
ます。それがロシアの「ダーチャ型
農業」生産です。ダーチャとは「作
業小屋付農園」のことです。

これはソ連時代に圧倒的多数
を占める都市住民の食糧が不足
した時、政府が苦肉の策として希
望する都市住民に1家族当たり
約600㎡の荒地を農地として
分け与えたものです。それがソ連
崩壊の経済混乱から国民を救い、
今日では大都市、例えばモスクワ
の75%の住民がダーチャを持ち、
小麦以外で見ればロシアの農業生
産の90%以上を生産しているの
です。と云うことは、皆んな都市内
で本業の傍らのごとくから、せい
ぜいで土日の農作業の結果です。

一方細かい計算値はここでは挙
げませんが、里山協会で試算した
ところでは人間一人が食べて行く
には約120㎡の土地があれば大
丈夫です。これはダーチャの面積
を4人家族で作ると考えればほぼ
同じ面積です。

都市住民による農業の時代へ

同様にこの数字で現在の日本
の農地面積を割って計算したとこ
ろ、日本の人口をすべて賄うには
少し足りないのですが、1億人を
切った辺りから日本国内で自給自
足が可能になります。

そして広大過ぎない国土です
から、都市から1時間以内に行ける自
家農園や里山で、自然からの糧を
手に入れることが可能でしょう。
要するに我が国の農業は大規模
化や工業化ではなく、都市住民によ
る片手間作業からの作物と里山の
恵みで、お金を介在させない流通を
組み立てることが適するのです。

「直ちに健康に影響が…」

さてこれからが今回の本題で
す。「直ちに健康に影響が出るもの
ではありません」との「名言」があ
りましたね。そうです東日本大震
災での福島第一発電所の事故故の



池田志朗(いけだ・しろう) *一般社団法人日本山協 代表理事。約30年にわたって街づくり・地域づくりの仕事を中心にしながら一方で車・食分野の商品開発に携わる。最近、毒まみれの現在の生活環境からの脱出を呼び掛ける活動に動いている。

写真右/糖質オフのプチガトー。中/糖質オフのガトーショコラとアーモンドショコラ。左/堀田洋菓子店主堀田茂吉さんと筆者

後、当時の枝野官房長官が繰り返し口にした言葉です。

この言葉は既に多くの人が気が付いているように、放射能汚染だけでなく私たちが常日頃口にしている食べ物や日用品の多くにも当て嵌る表現です。逆に云うと、私たちの身の周りは「長い間に大きな健康被害を生じている毒物」だらけになっています。に、慄然とするばかりです。

身の周りは「毒物」だらけ

例えば、合成保存料などの食品添加物や砂糖、人工甘味料、それに随分と騒がれたシャンプー等も誰かが思いつきますが、もう一歩踏み込んで、水道水、自然栽培以外の農作物、穀物(ー)等が「直ちに」の毒物」に該当すると思われる。昭和30年頃までは見られなかった病気や症状とその発生源がそうだと云えるでしょう。

つまり、糖尿病、ガン、アトピー、膠原病、潰瘍性大腸炎、それにアスペルガー症候群、自閉症等、いわゆる生活習慣病や原因不明の難病と称されているものの原因が、無意識に使い続けられたり、依存性ある中毒物質によるものではと疑われるようになって来たのです。

希望への脱出に向けての要素

個々の毒物と病気についての研究は目下それぞれの専門家が進めていますのでここでは触れませんが、基底で繋がる「希望への脱出」のいくつかの要素について述べます。

それはこの宇宙のなかで水と珪素と微生物そしてこれらに働きかける人間の「愛」の意識です。

水と珪素のはらたき

まずは水です。水の意味と役割は云うまでもありませんが、日本の水道水には塩素が入っています。これは日本の常識ですが、諸外国ではそうではありません。アトピーの子供が浄水器を通したお風呂とシャワーを使ううちに治ったとの例がありますし、ウォッシュレットと大腸がんの関係も取沙汰されています。細菌を殺すとの目的ではなく、有用な微生物を活性化させて水を飲む時にも珪素が役立つようです。これはルルドの水等に水素が多いと云われて来ましたが、同時に珪素含有量が多いのも事実です。

珪素補給で農地と微生物を活かす

次にいわゆる農地のほとんどは永年の作物栽培の為に水溶性珪素が不足しています。大陸地殻の70%は珪素で出来ているにもかかわらず植物は鉱物質の珪素は吸収出来ません。水溶性の珪素が不足していると植物は細胞膜を構成出来ず、すぐ腐る野菜が出来るわけです。それを食べる人間もまた珪素不足になっています。珪素不足では骨も筋組織も血管も十分に形成出来ませんし、毛細血管が詰まり易くなります。こうしたことはこの10年程前までは研究が及んでいなかった分野です。

今後の都市住民によるダーチャ型農園では「珪素循環農法」(一般には炭素になっていますが、これは珪素とするのが正しい)が用いられるようになるでしょう。この農法(と云うより宇宙への理解と対し方)は、作物は人間が作るのではなく微生物が育てるものであり、人間はその微生物が活動しやすい状態を維持するだけで良いとの考え方です。これに必要なのは水と珪素と作物に対する愛です。

「愛」に満ちたケーキ

水と珪素と微生物、これらには人間の想いが大きく作用すると考えられます。「愛」つまりあなたのことを気にかけているよとの想いが働きかけて、結果が変わるのは共通したことです。

そこで最後に知る人ぞ知る「糖質オフケーキの堀田洋菓子店」さんをご紹介します。この金沢市の老舗のご主人の堀田茂吉さんは、同業者に糖尿病やガンで亡くなる人が多いことが気になっていました。そこで極力糖分と炭水化物を減らしたケーキを研究して商品化していらつしゃいます。そこに水溶性珪素をご紹介しますところ、グルテンが少なくて繋ぎが難しくして歩留まりが悪かったシュークリームの皮が見事に繋がったこと、およびメレンゲの微細な泡が潰れにくくなり、どうもタンパク質をしっかりと結び付けてくれるようだと言いでいらつしゃいます。

肥満や糖尿病そしてガンを気にせずに食べられるケーキに込めた愛情が感じられる優しい味です。こうしたところから、「毒」だらけの世界から脱出できる手掛かりが見出せると思つたのです。